医学部専門予備校 英進館メビオ 福岡校 × 医学部進学予備校 メビオ　医学部専門予備校 YMS

解答速報

福岡大学 医学部（推薦）　英語

2025年 11月23日実施

〔Ⅰ〕

(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)
7	5	4	8	3	6

〔Ⅱ〕

(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)
2	4	2	1	1	2	3	3

〔Ⅲ〕

(a)	(b)	(c)	(d)
4	1	3	2

〔Ⅳ〕

	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)
A	3	5	4	1	6	2
B	2	6	1	7	3	5
C	2	5	7	6	3	1
D	6	2	1	4	7	3

〔Ⅰ〕 (A): It's no secret that smartphones and other digital devices control and consume our attention, (**both among adults and young people**).

空所に入れる候補として、分詞構文、非制限用法の関係詞節、同格の名詞句、副詞句が考えられる。1. は前文と意味の整合性が取れず、4. は "their" を指す語が前文にない。9. の "either children or young adults" と "our attention" とでは同格関係にならない。したがって、前置詞を含む副詞句である 7. "both among adults and young people" を選ぶ。

(B): Having never experienced a world without internet, today's youth are "digital natives" (**who are used to being exposed to one new thing after another**) from childhood.

第 2 段落第 5 文に "such constant stimulation"「このような絶え間ない刺激」とあり、これが 5. の "one new thing after another"「次々と新しいものに」と符合すると推測でき、"digital natives" を先行詞とする関係詞節である 5. を選ぶことで文法的にも適合する。

(C): Philosopher Byung-Chul Han argues that such constant stimulation makes people seek novelty, (**which reduces their capacity to focus**).

第 2 段落最終文に「注意が散漫になり集中力が低下する」とあるが、その原因が空所直前の "such constant stimulation makes people seek novelty"「このような絶え間ない刺激のせいで、人々は目新しいものを追い求める」であり、それを補足説明する非制限用法の関係詞節 "which reduces their capacity to focus"「それによって集中力が低下してしまう」を置くことで文意が通ることから 4. を選ぶ。

(D): Too much information (**not only makes it harder to find meaning**) but also confuses our thinking.

空所の後ろに "but also" があるので、"not only" を含む 8. "not only makes it harder to find meaning" を選ぶ。このパラグラフでは、デジタル機器が脳の機能に及ぼす悪影響が述べられており、8. を入れることで「情報量が多すぎると、意味を見出すことがより困難になるだけでなく、思考が混乱する」という意味になり、文意が繋がる。

(E): The effects are particularly worrying for children and teenagers, (**whose cognitive and behavioral strategies**) are still developing.

このパラグラフでは、大人と比べて、特に子どもや若者に対するデジタル機器の悪影響が顕著であることが述べられている。空所の後ろに "are still developing" と続いていることか

ら、空所には “are” の主語にあたるものが含まれているとわかる。3. “whose cognitive and behavioral strategies” を入れると、 関係代名詞 “whose” の先行詞が “children and teenagers” となり、「子どもやティーンエイジャーの認知戦略や行動戦略は未だ発展途上にある」という意味で繋がる。

(F) : While adults may be able to control themselves to refocus, young people (**lack the skills to manage this confusion**).

前文に「過度な刺激は、特に集中が絶えず中断させられる場合は学習の妨げとなる」とあり、空所を含む文では While 節と主節で大人と若者が対比されていると考えられる。「大人は再び集中するよう自分をコントロールすることができるかもしれないが」という While 節の後、主節を作るため “young people” に続く動詞以下を選べばよい。6. “lack the skills to manage this confusion” を入れると、「若者はこのような混乱に対処するスキルに欠けている」となり、 “this confusion” が前文の内容を指すので意味が通る。

【全文訳】

周知の事実だが、スマートフォンやその他のデジタル機器は、大人でも子供でも、私たちの注意力を支配し消費している。このことは、異なってはいるものの非常によく見られる 3 つの場面から示すことができる。1 つめは、ティーンエイジャーが一緒に座っているのにそれぞれの画面に没頭している場面。2 つめは、人々が公共交通機関に乗っていて、絶えずソーシャルメディアの画面をスクロールしている場面。3 つめは、ビジネスパーソンが仕事中に動画のせいで気が散っている場面である。こうした例は、モバイルアプリケーションの目的が私たちの注意を引きつけるということのありようを示している。結果として、利用者は終わりのないネットサーフィンのサイクルに捕らわれてしまうのである。

このような形で注意が引きつけられる発端は幼少期である。たとえばスペインでは、2022 年の統計によると、ほとんどすべての子供が 14 歳までに携帯電話を持っている。こうした子供は、大人と同様に、速さと手軽さからアプリケーションを利用しており、それはインターネットが持つ「すぐに満足を得られる」という論理を反映している。今日の若者はインターネットがない世界を経験したことがなく、幼少期から次々と新しいものにさらされることに慣れた「デジタルネイティブ」である。哲学者の韓炳哲（ハン・ビョンチョル）の主張によれば、このような絶え間ない刺激のせいで、人々は目新しいものを追い求め、その結果、集中力が低下してしまう。こうした状況は、注意が散漫になり、集中がますます困難になるという、認知機能が過度に活性化した状態へとつながる。

こうした行動の変化は、脳の働きにも影響を及ぼす。ニコラス・カーが『The Shallows：インターネットが脳にしていること』の中で述べているように、脳は、私たちが用いる道具に適応する。熟読は持続的

な集中を促すのに対して、デジタル習慣は脳が素早く認識するように訓練する。情報が過剰であれば、意味を見いだすのが難しくなるだけでなく、私たちの思考が混乱してしまう。圧倒的な量の情報に直面すると、私たちの頭は情報をふるいにかけるようになる。しかし、その情報の痕跡は残るので、自分の本当の関心を理解したり、明確な思考を保ったりするのが難しくなる。このことで集中力と精神的明晰さが全体的に低下してしまう。

こうした影響は、特に子どもやティーンエイジャーにとって懸念されるものである。というのも、彼らの認知や行動に関する戦略はまだ発達途上にあるからである。過剰な刺激は学習の妨げとなる。集中力が絶えず妨げられる場合には特にそうである。大人は再び集中するために自制できるかもしれないが、若者はこの混乱に対処する能力がない。集中力と自己規制能力を早期に伸ばしておかなければ、子どもは長きにわたって自身の集中力の問題で苦労するだろう。あまりに早い段階からデジタル機器を無制限に利用できるようにしてしまうと、子どもの思考や学習の仕方に一生消えない変化をもたらすおそれがあるのだ。

〔Ⅱ〕 (a) 2. have experienced

experience は人を主語にする他動詞である。人でない delays を主語にして experience を述語動詞として使う場合は、have been experienced という受動態にしなければならない。

Following damage from the typhoon, delays (　　) in the delivery of goods by road.

「台風の被害を受けて、道路輸送による物品の配達の遅れが_____」

1. 起こっている

3. 起こりうる

4. 起こるかもしれない

(b) 4. had an accomplishment

この文における関係代名詞の what は she に続く動詞の目的語なので、空所は他動詞で終わらなければならないが、4. は accomplishment という名詞で終わっている。

The Olympic champion was sincerely grateful to everyone who had helped her to achieve what she (　　).

「そのオリンピックチャンピオンは、彼女が_____ことを達成するのを助けてくれたすべての人に心から感謝した」

1. 成し遂げようとした

2. 成し遂げた

3. 成し遂げた

(c) 2. affects for

文頭から factors までの部分でいったん文が完結しており、空所以下は "the factors" の説明になるはずなので、空所に動詞の現在形で始まる表現を入れることはできない。

The international price of oil is one of the factors (　　) the Japanese economy.

「石油の国際価格は、日本経済_____要因の一つである」

1. に影響を与える

3. にとって重要な

4. のために考慮すべき

(d) 1. Even though the

接続詞 though の後は主語と動詞を含む文の形になるはずであるが、1. では “Even though” の後が “the difficulties” という名詞のみになっているので不適。2. は Though と experiencing の間に he was が省略された構文なので適している。

(　　) difficulties early in his career, he eventually became a successful lawyer.

「職に就いて初めの頃は困難_____、彼は結局弁護士として成功した」

2. を経験していたが

3. があったが

4. に遭遇したにもかかわらず

(e) 1. about hand in

前置詞の後には名詞または動名詞が続く必要があるが、1.は前置詞 about の後に動詞の原形が続いているので不適。

I forgot (　　) my course report by its due date.

「私は学習報告書を提出期限までに_____忘れた」

2. 提出しなければならないことを

3. 提出することについて

4. 提出することを

(f) 2. putting on

この文における that は目的格の関係代名詞であり、空所には他動詞が入るはずである。2.は putting という現在分詞を単独で述語動詞として用いているので不適。4. の <have A on> は <wear A> と同じ「A を身に着けている」という意味なので適している。

The kinds of clothes that people (　　) in the street are a reflection of current fashion trends.

「人々が通りで_____ような服は現代のファッショントレンドを反映したものである」

1. 身に着ける

3. 身に着けている

4. 身に着ける

(g) 3. just starting

3. は “the Nishi-Kyushu Shinkansen” という主語に続く述語動詞の部分に starting という現在分詞を単独で用いているので不適。

In September 2022, the Nishi-Kyushu Shinkansen (　　) between Takeo-Onsen and Nagasaki Stations.

「2022 年の 9 月に武雄温泉駅と長崎駅を結ぶ区間に西九州新幹線が_____」

1. 走り始めた

2. 稼働し始めた

4. 開通した

(h) 3. to having

動作の目的を表す不定詞の表現は to *do* でなければならないので、3. の “to having” は不適。

You should arrive at the airport well ahead of your departure (　　) enough time to complete check-in and the security check.

「チェックインと保安検査を終えるのに十分な時間_____出発時刻に十分余裕を持って空港に到着したほうがよい」

1. を持てるように

2. があるように

4. を持てるように

〔Ⅲ〕 (a) competitive [kəmpétətiv] と同じものは 4. whatever [wʌtévə]

1. payment [péɪmənt]　2. disease [dɪzíːz]　3. pilot [páɪlət]

(b) reply [rɪplái] と同じものは 1. climate [kláɪmət]

2. heavy [hévi]　3. scissors [sízəz]　4. perfectly [pə́ːfɪktli]

(c) orthodox [ɔ́ːθədɔ̀ks] と同じものは 3. shortage [ʃɔ́ːtɪdʒ]

1. personally [pə́ːsənəli]　2. owner [óʊnə]　4. partly [pɑ́ːtli]

(d) colorful [kʌ́ləfl] と同じものは 2. sunshine [sʌ́nʃàɪn]

1. hopeless [hóʊpləs]　3. approximately [əprɔ́ksəmətli]　4. concern [kənsə́ːn]

〔Ⅳ〕　A.　3 5 4 1 6 2

(What) **do** **you** **think** **would** (be the best) **course of** **action** (to survive in this difficult situation?)

Yes / No で答えられない質問なので、疑問形の "do you think" が疑問詞の次に来る。問題文に「最善の道」とあるが way を使うと前後につながらなくなるので注意しよう。"course of action" で「行動方針、方策」を表す慣用的な表現だが、それを知らなくても course に「道筋、進路」の意味があることがわかれば、way との意味の重なりから間違いを避けることができる。使わない語は 7. way である。way を使うと空所が一つ余る。

B.　2 6 1 7 3 5

At **present** (there is no conclusive answer) **as** **to** **what** **causes** (the phenomenon.)

「その現象の原因」の意味の名詞節 "what causes the phenomenon" を作れるかどうかが正解の鍵を握る。あとは、"at present"「現在のところ」、"as to ~"「～に関する」の 2 つの基本的な表現を使えばよい。使わない語は 4. about である。about を使うと空所が一つ余る。

C.　2 5 7 6 3 1

(We obtained agreement that finance ministers would attend when) **matters** **related to** **economic** **union** (were) **to** **be** **discussed**.

問題の日本文の通りに修飾関係を整えることで答えが出せる。前半の並べ替え部分は、形容詞的に用いられる分詞である "related to ~"「～に関する」を日本文通りに matters に後置修飾させる。後半部分については、助動詞的に用いられ予定を表す <be to> の後ろに動詞の原形から始まる受動態 "be discussed" を続ければよい。使わない語は 4. connect である。

D.　6 2 1 4 7 3

(I had a) **private** **meeting** **with** (the President,) **whose** **appreciation** **of** (my attendance was evident.)

前半は、「～と秘かに会った」の意味を "I had a" に続けられる「形容詞＋名詞」を用いて表す。後半は、問題文の "was evident" の主語が「私が来たことを大統領がありがたく思っていること」であるとわかれば組み立てるのが容易になる。節をつなぐ役割がある継続用法の関係代名詞 whose で始めて「感謝」を表す名詞を続け、"whose appreciation ~ was evident"「大統領の感謝の気持ちが明らかだった」の意味の英文を作る。appreciation のあとには "of my attendance" を入れることで、「私が来たことをありがたく思っている」の内容を表すことができる。使わない語は 5. thank である。

講評

〔Ⅰ〕［長文空所補充］	（標準）	「デジタル機器が思考や学習に及ぼす影響」に関する英文からの出題である。受験生にとって (A) は解答に迷うところであり、語彙レベルが昨年度よりやや難化しているが、全体としては文法上の手がかりに注目し、文脈を十分に把握することで正解を導くことができる。
〔Ⅱ〕［文法四択］	（やや易）	昨年度と異なり「適していないもの」を選ぶ形式になり、自動詞と他動詞の区別、接続詞や前置詞に続く形など、基本的な文法・語法を理解していれば解ける問題が多い。
〔Ⅲ〕［発音アクセント］	（やや易）	例年通り、アクセントのある母音が同じものを選ぶ問題。昨年と同じ難易度である。
〔Ⅳ〕［語句整序］	（やや易）	基本的な文法表現・構文・単語の知識が問われており、解きやすい問題である。

〔Ⅱ〕が「適していないもの」を選ぶ問題形式になっているが、設問自体は難しくない。全体の難易度は昨年度と比べてやや難化している。目標は 80%

メルマガ無料登録で全教科配信！ 本解答速報の内容に関するお問合せは … 英進館メビオ福岡校 0120-192-215 まで

医学部進学予備校 メビオ 0120-146-156 受付 9～21時(土日祝可・振替からOK) 大阪市中央区石町 2-3-12 ベルヴォア天満橋 https://www.mebio.co.jp/

医学部専門予備校 YMS heart of medicine 03-3370-0410 受付 8～20時(土日祝可) 東京都渋谷区代々木 1-37-14 https://yms.ne.jp/

医学部専門予備校 英進館メビオ 福岡校 0120-192-215 福岡市中央区渡辺通4-8-20 英進館 天神本館新2号館2階 https://www.mebio-eishinkan.com/